

## 2020 年度 福祉助成金（活動助成） 成果報告書

ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじん そーる・そーるほうもんかんどすてーしょん	
団体名	特定非営利活動法人そーる・そーる訪問看護ステーション	
代表者名	片岡奈津子	
連絡先	住所	岡山県倉敷市真備町尾崎 812-16
	TEL	086-697-0823
	E-mail	Soul.mabi8@gmail.com
	URL	http://nposoul.com/
設立年（西暦）	2016 年	
助成活動名	コミュニティ再生に貢献する地域サロン活動： エンリッチカフェ☕ ～より豊かな真備町へ～	
助成額	500,000 円	
活動内容	目的	<p>不特定多数の市民や団体に対して、医療や介護を中心に訪問看護サービス、患者搬送事業に関する事業を行い、日常生活や在宅療養生の向上に寄与することを目的とする。被災後の地域においてコミュニティの再生に寄与する活動を行う必要がある。災害後みなし仮設、建設型仮設へ入居し遠く離れた場所で避難生活を余儀なくされている。コミュニティは崩壊し、慣れない場所での避難生活や、修理中の家での生活によるストレスや居場所がない等の課題が山積である。ストレスの増大により、慢性疾患の増悪や新たな疾患の発症、気力低下や引きこもりで活動量が低下し、生活不活発病を招く等、健康被害や災害関連死へと繋がっていく。町の中でくつろげる憩いの場を作り、なじみの顔が増えることで、人と人との関わりを持つ機会や、被災者の心身の健康を維持向上でき、生活再建への意欲へも引き出すことが今後も必要である。そのためには、「食べる」「語る」「学ぶ」をテーマにおいた活動を実施継続し、いつでも相談できる場所があるということが心の安心にもなり、被災者の支援して欲しい『今』に対してスピード感をもって取り組むことが大切であると考えます。</p>
	内容	<p>事業対象者：2018年西日本豪雨にて被災した住民および関係人口であり、活動への参加者合計は1,034名であった。活動のボランティアスタッフの中には被災した住民も多く、対象者を被災住民とそうでない者に明確に区分することはできない。</p> <p>実施場所：みそらシェアおよびそーる事業所にて実施した。みそらシェアは、地域住民からのご厚意によりそーるが土地をお借りし、地域活動の拠点としている。</p> <p>実施スケジュール：エンリッチカフェ1回/月、防災ばー1回/月。コロナ禍の影響により、会食につながる活動は自粛した。</p> <p>活動概要：①被災後の秋より続けているエンリッチカフェ活動については、地域住民からの開催要望の意見を受け、コミュニティ再生には欠かせない、住民にとっての居場所となっていることを再認識した。でき得る感染対策を講じ、参加者の協力も得て、継続実施。医師による新型コロナウイルス感染症についての学習会も開催した。また屋外で医師や看護師による健康相談も継続した。</p> <p>②防災ばーについては、被災住民やその中でも民生委員を務める方および国交省職員が集い、被災後のくらしや防災、河川の治水対策、災害時要配慮者の避難について話し合いが行われた。住民と行政職員が忌憚なく定期的に対話する場の提供と参加しやすい雰囲気づくりに留意しながら実施した。</p>



	<p>成果</p>	<p>地域活動により、多様な人の繋がりや拠点を提供でき、コロナ禍においても、復興に欠かせない人と人の繋がりが途切れることはなかった。訪問看護・介護事業の発展にも好循環が生まれている。活動を展開していくにあたって、ベースとして、在宅看護を担っているからこそ視野を広くすることができている。地域活動を行うことで、地域住民からのニーズを知る機会が増え、訪問介護事業の立ち上げにつながった。訪問看護だけではカバーしきれなかったことにも応えられるようになった。</p>
<p>今後の課題と対応策</p>		<p>ホームホスピス設立に関して被災した家屋をお借りできる話が進んでいたが、被災後に刻々と状況が変わる中、先方が置かれている状況や心理状態も変化している。また、地域活動の拠点としてお借りしている土地も地域が復興していく過程で、移動せざるをえず、拠点確保の困難さを実感している。</p> <p>拠点確保の課題を感じる一方、地域内を広く見渡しつつ、地域住民との関係性構築を図りながら活動を継続していくことで、拠点についても貴重な情報源を得られてきている。地域に貢献できる活動を地道に続けていくことが最善の対策であると考えている。</p> <p>コロナ禍においても、思い通りのことが実行できないが、地域の皆さん含め、関係者と話し合い、形を変えながら活動自体は継続していく。</p>
<p>写真の提出</p>		<p>写真1. そーる事業所の西側にお借りしたみそらシェアにてエンリッチカフェ。受付では看護師が体温測定と健康状態の確認等を行なった。医師による健康相談も気やかな雰囲気の中で実施された。</p>  <p>写真2. 医師による新型コロナウイルス感染症についての学習会も行われた。カフェという形の中で、講義ではなくその場に居合わせた者同士でのフラットな情報共有の場となった。</p> 

写真3. 住民、民生委員、国交省職員が集い、治水や避難、地域防災について話し合いが定期的に行われた。そーるは忌憚なく話し合えるような雰囲気作りに努めた。これも看護として必要な役割であると考えている。

